

神戸大学附属図書館
第1回常設展

近代神戸の 源流を訪ねて

開港と居留地 -

展示品目録



パネル 京町明治初年(「神戸京町と海岸通の風景」一部)

2007年9月20日(木) ~ 12月21日(金)

社会科学系図書館 2階常設展示コーナー

1. 開港と居留地の成立

神戸の外国人居留地は、東西は生田川（現フラワーロード）から鯉川筋まで、南北は旧西国街道（現大丸前）から海岸線までの範囲と定められました。神戸開港の1868（明治元）年から1873（明治5）年の間に4回にわたって計126区画が競売に付され、永代借地権が認められました。また、居留地整備が開港に間に合わなかったため、生田川から宇治川までの山手地域を雑居地とする措置がとられました。

居留地の設計は、かつて上海租界の建設に携わった英国人J.W.ハートによってなされ、歩車道が区別された道路、下水道、公園、遊歩道、ガス灯などが整備され、整然とした西欧的の都市空間として誕生しました。しかしながら、当時のこの地区は生田川の氾濫と台風による浸水にたびたび見舞われており、生田川の付け替え工事や海岸通の石垣修築などの大工事が施されました。

居留地には日本の行政・司法権が及ばず、住民代表、各国領事および兵庫県知事による自治組織「居留地会議」が結成され、居留地返還（1899（明治32）年）まで居留地の運営にあたりました。



1-5 建家貸渡約定書

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
1-1	居留地競売予告	文書	1870（明治3）年 発行：“Hiogo & Osaka Herald” Office	英字新聞会社が印刷配布した、居留地第3回競売（1870年5月）60区画の予告書。競売条件と各区画の坪数等が書かれている。	開港文書 （社会科学系図書館）
1-2	護岸堤防工事に関する意見（J.W.ハートから居留地会議へ）	文書	1871（明治4）年	居留地建設に中心的役割を果たした土木技師ハートが、台風被害防止のための護岸堤防について現計画の不備を訴えた居留地会議宛意見書。	
1-3	居留地会議規則	文書	発行年不明	各国領事・兵庫県知事・住民代表からなる「居留地会議」の議事進行規則。	
1-4	「魔術ショー」案内と招待状	文書	1877（明治10）年	居留地内のMasonic Hallで開催される魔術ショーの案内と、県知事（森岡昌純）宛の招待状。	
1-5	建家土蔵売渡約定書（雑賀屋武次郎とJ.G.ウォルシュ）	文書	1868（明治元）年	二つ茶屋町（元町4丁目付近）の家屋・土蔵の売渡状。外国人の土地所有は認められていないので建物のみ売渡であるが、建物の処分は自由とされている。ウォルシュは居留地2番を取得した米国商人で、後に神戸製紙所を創業する。	

2. 地図に見る近代神戸の発展

ここでは、地図4点と、挿絵・写真等の関連資料を展示しています。

『兵庫津細見図』は開港当時すでに海港都市として繁栄を見せていた兵庫津の様子がうかがえます。『兵神市街の図』は、1879（明治12）年に神戸区が誕生して「神戸」と「兵庫」が一体化したことを象徴的に示すタイトルになっています。『神戸市細見全図』は「神戸市」（1889（明治22）年）が誕生して2年後の市街図ですが、河川付替、鉄道敷設、海岸部の伸張など開港後短期間に変貌を遂げる神戸の姿が浮かび上がってきます。



2-1 摂津国八部郡龜絵図（部分）



2-3 神戸港外国船入津之図

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-1	摂津国八部郡龜絵図	地図	未詳（江戸末期?）	花熊村の庄屋・村上家文書中の資料。「龜」は「粗い」という意味で、主に郡内の村名を示した地図である。宇治川と生田川の間には、西から走水（はしうど）村、二つ茶屋村、神戸村。	村上文庫 （社会科学系図書館）
2-2	明治二年兵庫津細見図（湊川若林良画写）	地図	1869（明治2?）年 発行：兵庫書林（中屋與兵衛）	明治二年ごろの兵庫津を描いた絵図。湊川若林良（若林秀岳）は天保10年、八部郡（やたべぐん）二つ茶屋村（現神戸市中央区元町6丁目）に生まれた画家。海には船が並び、色彩のきれいな絵図。	人間科学図書館

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-3	神戸港外国船入津之図 (松川半山畫工)	挿絵	1873(明治6)年 『新增大日本船路細見記』 (大坂:柳原喜兵衛)	『大日本船路細見記』のなかの見開きの絵。居留地海岸通りと背後の六甲の山並みが神戸らしさを感じさせ、蒸気船、大型帆船、和船が入り混じっている様子が描かれている。	住田文庫 (社会科学系図書館)
2-4	神戸港に停泊する船舶図	挿絵	1871-72(明治4-5?)年 『世界の富:産物往来』 萩田 菟夫著(浪華:宝文堂)	往来物とは平安後期から明治初期にかけて用いられた初等教科書の総称。世界各国の物産目録で、冒頭折込の「神戸港に停泊する船舶図」に続いて、各国の物産名を中心に書きつらねたもの。	

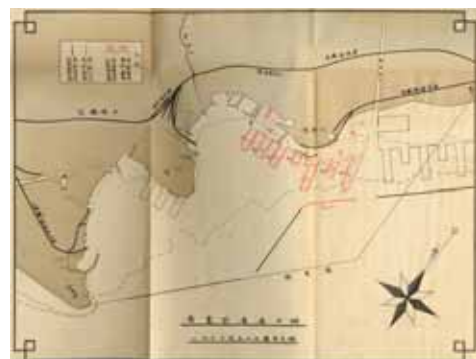
パネル名	種類	発行年、出典資料	所蔵館
オールコック『大君の都』の兵庫風景(1861年頃)	挿絵	1868年(London, Longman) Alcock, Rutherford <i>The Capital of the Tycoon</i>	人文科学図書館
英国紙掲載の兵庫風景(1864年)	挿絵	1868年3月14日号(切抜) <i>Illustrated London News</i>	
A hasty sketch of Kobe	挿絵	1917年(Boston, Mifflin) Morse, E.S. <i>Japan day by day</i>	人間科学図書館
神戸京町と海岸通の風景	写真	1943(昭和18)年 『永代借地制度解消記念誌』 (永代借地制度解消前後措置連絡委員会著)	
明治35年(1902年)頃の神戸	写真	1902(明治35)年 文芸倶楽部定期増刊『大阪と神戸』(博文館)	
齋藤溪舟著「神戸元居留地」の一節	記事		

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-5	兵神市街の図	地図	1880(明治13)年 発行:栗田福三郎(元町通)	「兵神」という表記には、「兵庫」「神戸」それぞれ別の町という意識の残存がうかがえるようである。左上に各地点への距離表があるが、基点は神戸駅の東、相生橋である。	住田文庫 (社会科学系図書館)
2-6	神戸市細見全図	地図	1891(明治24)年 発行:山川鶴吉(宇治野町)	市制から間もない地図であり、「神戸市」の名称が標題に使われている。小さな字で詳細に記された地図である。	
2-7	The Bund, Kobe (神戸居留地の写真)	写真	1871(明治4)年[復刻は1966年] <i>Far East</i> (復刻版:雄松堂書店)	横浜の英字新聞“Far East”の1871年4月17日号。第一波止場(現在の京橋)近辺から海岸通りを写した写真。次ページには「神戸は東洋一美しい居留地である」というコメントもある。	総合・国際文化学図書館
2-8	「居留地三代」(写真)	写真	1968(昭和43)年 『神戸貿易協会史』神戸貿易協会(神戸貿易協会)	明治初めから昭和12年ごろまでの居留地写真6枚。	人間科学図書館

パネル名	種類	発行年、出典資料	所蔵館
居留地海岸(明治後期)	写真	1905(昭和38)年 『神戸港』(田中鎮彦編)	人間科学図書館
元町通(明治後期?)	写真	1930(昭和5)年 『大神戸』(赤田庄之助編著)	
明治24年当時の川崎造船所	写真	1936(昭和11)年 『川崎造船所四十年史』(川崎造船所編)	野村文庫(社会科学系図書館)
川崎造船所全景(明治44年)	写真	1911(明治44)年 『日本近世造船史』(造船協会編)	社会科学系図書館

3. 築港と海運の発展

神戸は開港以来横浜とならんでわが国の二大貿易港として発展を遂げました。明治30年代になると神戸は貿易総額で横浜を凌駕するほどでしたが、港湾の設備・施設は貧弱な状態でした。神戸市はたびたび中央政府へ築港計画を働きかけましたが実現せず、「築港市長」と異名をとった水上浩躬が市長に就任後、意見書「神戸港の現状及改良策」を発表し関係機関へ配付するなどの活動を実施し、1907(明治40)年ようやく神戸築港予算が帝国議会通过しました。同年9月小野浜の第1~4突堤を中心とする第一期修築工事が起工、1918(大正7)年からは第二期修築工事(中突堤、兵庫突堤など)が着工され、神戸港の基幹整備は大きく進展しました。



3-4 築港計画図(市長案)



3-5 神戸港築港全景

開港と同時に神戸港には主に英米の商船が入港し神戸の海運業をリードしました。政府は国内海運業の振興をはかり、1884（明治17）年に大阪商船、1885（明治18）年には日本郵船などの大規模な商船会社が誕生し、居留地海岸通に支店を置きました。

神戸を代表する商船会社には山下汽船、勝田汽船、内田汽船、乾汽船、岡崎汽船などがあり、これらは日清・日露戦争から第一次世界大戦の戦争特需を背景に大きく成長を遂げたもので、神戸が第二次大戦前まで世界四大海運市場の一角をになう原動力となりました。



パネル 第一突堤築造後



3-1 日本郵船発着表

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
3-1	日本郵船発着表	記事	1905(明治38)年 『Kobe Daily News』	神戸で発行されていた日刊英字新聞“Kobe Daily News”1905年6月26日号に掲載された日本郵船会社所有船の発着表。欧州(ロンドン、マルセイユ)、シアトル、豪州、ボンベイ、上海など多くの航路が開かれていた。	開港文書 (社会科学系図書館)
3-2	神戸港に船籍を有する汽船及帆船	記事	1905(明治38)年 『神戸港』(田中鎮彦編)	1905年1月の時点で神戸港に船籍を置いていた汽船・帆船の名前と所有者、総トン数が一艘づつ記載されている。『神戸港』は港湾関係事業に関する名簿、名鑑を主とする資料。	人間科学図書館
3-3	『神戸港ノ現状及改良策』(水上浩躬著)	記事	1906(明治39)年	神戸築港の必要性について水上市長自らが執筆し関係者に送った意見書。このような活動が築港実現に向けて大きな原動力となった。	社会科学系図書館
3-4	築港計画図(市長案)	図面	1908(明治41)年 『神戸築港問題沿革誌』(神戸市役所)	水上市長が意見書の中で提案した築港計画図。いくつかの変更点はあるが、小野浜第1から第4突堤などは概ねこのとおりに実現した。	
3-5	神戸港築港全景	写真	1919(大正8)年 『神戸実業要覧』(神戸市役所)	第一期工事中の小野浜の写真。線路は未完成で明らかに工事中であるが、船が接岸しすでに利用されているところもある。荷物の運搬に馬車が使われている様子が写っている。	人間科学図書館
3-6	工事中の神戸港の様子(写真3点)	写真	1923(大正12)年 『神戸港大観』(神戸市役所)	「神戸港築港全景」(3-5)に比べて「築港構内より突堤及沖合を望む」(下)では工事が進んでいる状況がみてとれる。第4突堤(現在の第1突堤)ではすでに鉄道・上屋が出来上がり、貨物車が運行している。	

パネル名	種類	発行年、出典資料	所蔵館
『神戸港』序文	記事	『神戸港』田中鎮彦編 1905(明治38)年	人間科学図書館
『神戸港外国貿易六十年対照図表』	図表	1928(昭和3?)年 発行:神戸税関	社会科学系図書館
日本郵船汽船安藝丸	写真	『神戸港』田中鎮彦編 1905(明治38)年	人間科学図書館
日本郵船株式会社神戸支店	写真	『神戸実業要覧』神戸市役所 1919(大正8)年	社会科学系図書館
第一突堤築造前と築造後	写真	『神戸港大観』(大正12年)神戸市役所 1923(大正12)年	人間科学図書館
「築港起工式」	記事	『神戸又新日報』(マイクロフィルム版) 明治40年9月16日号	人文科学図書館
上屋に貨物収容の状況	写真	『神戸実業要覧』神戸市役所 1919(大正8)年	社会科学系図書館
今日の神戸港:元居留地海岸よりメリケン波止場沖合を望む	写真		
神戸港全景	写真	『神戸港大観』(昭和2年)神戸市役所 1927(昭和2)年	

パネル名	種類	発行年、出典資料	所蔵館
実測神戸市地図	地図	1912(明治45)年 発行:石丸甚八(元町通)	人間科学図書館